在学生Oさんの留学体験記

滞在期間：1か月
留学先：フランス　トゥール
留学した学校名：トゥレーヌ学院

　私はフランスのトゥールに 2020 年 2 月から 1 か月間留学に行きました。
　私がフランス留学に行きたいと思った理由はいくつかあるのですが、一番の理由は、哲学大国であるフランスで、フランス人の考え方や生き方を自分の体感で知りたいと思ったからです。他にも、ある程度の期間 1 つのことに没頭してみたかったことや、フランス語フランス文学科でフランスについて学んでいるのに実際のフランスを知らないことに違和感があったこと、「自由、平等、友愛」の自由とは何なのか感じることができるかもしれないと思ったことなど、どうしてもフランスに行きたくなって計画を進めました。

　手続きの流れは、2019 年 8 月に日仏文化協会にお話を聞きに行き、10 月に申し込みました。フライトの予約も日仏文化協会でとっていただきました。それからは大学での留学説明会を何度か受けたり、海外保険に入ったりし、期末試験が終わった直後の 2020 年 2 月に出発しました。

　フランス語は大学に入って初めて学びました。日常会話ができる程度に話せるようになることを目標とし、1年生の頃から意識して勉強していました。1 年生の頃は、フランス人の先生やマスールの熱心な指導のもと発音を矯正していただきました。2 年生になってからは、基本的な文法が一通り終わるため、授業で学んだ動詞の活用や単語を覚えることで語彙を増やしたり、選択必修の授業でアトリエを選択し、文法で理解の足りないところを補ったりと授業をフル活用していました。大学の授業だけでなく、仏検に挑戦し、毎日フランス語に触れるようにしていました。

　滞在形式はホームステイで、仕事を定年退職されたマダムとムッシューのお家にお世話になりました。食事は朝と夜準備してくれました。フランスのホームステイでは、非常にプライバシーが重視されており、食事以外はあまり一緒に過ごすことはありませんでしたが、時々娘さんのお家や、夫妻の友達の家に連れて行ってもらうこともありました。夕食については印象的で、食事の形式が日本のようにすべての料理がテーブルに出されて、食べるのではなく、スープが

出てきて全員が食べ終わったら次に野菜が出てくるというようにかなり長い時間をかけて食べるというものでした。早く食べすぎてもまだ食べている人を待つことになるし、遅くなっても相手を待たせてしまいます。そのためお互い相手の様子を気にするので、その日の相手の状態がわかります。私でも食事の時に、マダムが今日は具合が悪そうだと気づくことができたし、マダムも私の食事が進んでいないと体調を気遣ってくれたりしました。このフランス式の食事はただ食べるだけでなく、家族や友人がコミュニケーションをとるための特別な食事なのだなと身をもって実感しました。

街の様子についてですが、トゥールに着いた際、初めに感じたのは、とても静かで街のつくりが美しいということです。というのも到着した日は日曜日であったためお店はどこも休みで、人々もあまり出歩かないということでした。日本では田舎に行かない限り見慣れない光景で、人が全くいない分、街並みが目立ってきれいでした。日曜日以外のナショナル通りなどは人も多く、音楽を演奏する団体がいたり、テラス席の飲食店があったりと賑やかな街でした。私が通っていた語学学校の近くに小学校のような施設があり、通学に自転車ではなく、皆キックボードやスケートボードを使っていたことが驚きでした。日本の学校のように校則で禁止されることもなく、狭い道を安全に楽に通学するために非常に合理的なアイデアだと感心してしまいました。治安に関しても私が生活していた範囲ではかなり良かったです。盗難に遭わないように用心していましたが問題ありませんでした。本当はあまり良くないのかもしれませんが、学校行事で夜遅くなってしまっても一人で帰れるぐらい安全でした。

語学学校は、予め受けているテストによって振り分けられたレベル別のクラスで授業を受けました。人数は 15 人程度で、様々な国の人が入れ替わりで入ってきたり出て行ったりします。私のクラスでは、メキシコ人、ロシア人、アメリカ人、イラン人、韓国人、中国人、台湾人、アラビア人、そして他の日本人が数人いました。初めの頃は日本人といることも多かったですが、担任の先生が賑やかな方で、初日から無茶ぶりをされ、皆の前で踊らされたり、私のことを話題として扱ってくれたりすることが多く、どうにかして話さないといけない環境だったのでフランス語を話す抵抗がなくなり、度胸がつきました。そうしているうちに、クラスで仲良くなったメキシコ人と昼ごはんを食べに行き、そのつながりでスペイン人やコロンビア人の話を聞くことができました。レベルの高いクラスの人だったのですが、フランス語だけでなく英語も話せる上に日本語も知っていて、語学への意識の高さや吸収力に驚き、刺激を受けました。他に、自分より年上の台湾人と話す機会がありました。英語は話せないと言われたのでフランス語で話したのですが、その時に自分は大学でフランス語を勉強していなかったらこの人と会話することはできなかったし、この人の夢や人生を知ることはなかったのだろうなと思い、この瞬間にフランス語は私にとって「スキルとしてのフランス語」になり、特別なものになりました。またこのように自分の好きなことや興味を大いに追及し、唯一無二の経験ができたのは、今までフランス語を教えてくれた先生方や、大学や留学に行かせてくれた両親、サポートしてくれた方々などのおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

私が今回の留学を通して考えたのは、自分の解釈で物事を知ることの大切さです。

今の世の中は調べれば何でも情報が出てくるし、信じて良いものなのか見極める必要があるぐらい世の中の人々は情報を残してくれています。その中でテレビや新聞、字幕などで間接的にではなく直接自分の解釈で知ることは様々な視点で考えさせられ、身近に感じます。その感覚は自分にしか手に入れられないものだと思います。それが役に立つのかと言われるとわかりませんが、深みのある人生にすることができるのではないかと思っています。私はこれからもフランスで認めてもらった個性を大切に、自分にしかできないこと、自分だからこそ持てる考えを活かして生きていきたいです。現在は新型コロナウイルスの影響で留学に行くというのは考えづらいかもしれませんが、行きたいと思う気持ちがあればサポートしてくれる人や一緒に何か案を考えてくれる人は必ずいると思います。留学に行こうと踏み出す気持ちを大切にしてほしいと思います。